

## 学協会誌などのデータベース化についてのお願い

奈良先端科学技術大学院大学  
附属図書館運営委員会著作権専門部会

奈良先端科学技術大学院大学は、平成3年（1991年）10月に設立された、大学院のみの大学です。開学以来、研究棟などの整備を進めてきましたが、附属図書館については新しい構想による「電子図書館」を平成8年4月に開館いたしました。

貴社（社団法人、財団法人、協会）が発行される雑誌等についても、電子図書館の重要な資料のひとつとして、利用させていただきたいと思っています。そこで、電子図書館での利用（データベース化）について、貴社と協議をさせていただきたく、ここにお願いを申し上げます。

### 1. データベース化の背景及び目的

本学は、情報科学研究科、バイオサイエンス研究科及び物質創成科学研究科の3つの研究科から構成される、新構想の大学院大学です。これらの分野での高度な基礎研究を推進するとともに、大学院レベルでの高度な研究者、技術者の組織的養成、及び再教育を行うことを設置目的としています。このような先端科学技術分野の研究・教育を推進するためには、最新の研究情報や研究資料を取得し、これを有効に活用することがきわめて重要です。本学では、図書館が効果的に機能し、この使命を果たすことを最大の目標としました。図書館が、最新の情報を迅速・正確に提供するためには、資料の中身をコンピュータに蓄積（電子化）し、ネットワークを介して提供することが、最善の方法であると思っています。

そこで、従来型の図書館ではなく、図書館資料を電子化し蓄積して提供する「電子図書館」の建設を大学の基本方針としました。すなわち、資料の種別（図書、雑誌、音声、画像など）を問わないマルチメディアに対応する「メディアセンター」、研究者が図書館に出向くことなく、利用者にもっとも近いところ（個人ワークステーション）から検索・閲覧を行う「居ながら図書館」、情報提供の時間が限定されず、開館時間の概念が存在しない「24時間図書館」という、3つの柱による図書館の建設をめざしています。これにより、研究者・学生などの利用者が、必要なときに、必要な場所で、必要な学術情報を迅速に手に入れることができると考えています。

このような本学の構想が、文部省にも認められ、平成8年4月から一部の運用を開始しています。

電子化により構築されたデータベースを利用することによって、研究教育を最大限に支援すると共に、開発導入当初のシステムの問題点を洗い出し、今後のシステムの改良に活かすことが最大の目的です。

尚、本学では、平成4年度から、研究・教育上不可欠な資料として学協会誌をはじめとした出版

物を積極的に収集しています。

## 2. データベース計画の概要およびデータベース化の方法

雑誌、図書、マイクロフィルム、CD-ROM、ビデオ情報など収集および作成された多様なメディアを、メディア変換技術により、統合的なフォーマットに変換し、ハードディスクなどの蓄積装置に蓄積し、図書館設置の高精細のマルチメディア提示装置およびキャンパス情報ネットワークに接続されているワークステーションから書誌情報、目次情報、一次情報が閲覧できるようなシステムを構築しています。

雑誌、図書などの印刷物については、各ページをイメージスキャナーで画像情報として読み込み、目次情報とリンクさせ、データベース化をおこなっています。並行してイメージスキャナーで読み込んだ画像情報をOCRによって文字コードに変換し、検索のための全文データベースを作成しています。

## 3. データベース化の範囲

主として、論文誌のデータベース化を行いたいと思っておりますが、会誌、技術研究報告、大会予稿集、各種シンポジウム、国際会議のプロシーディングなどについても、情報提供ができるようにしたいと考えています。

## 4. 利用の範囲、時期

学内利用者（教職員、学生）のみに対して、許諾が得られ次第利用に供する計画です。

## 5. データに関する権利

画像データ及び文字コード化データについては、ネットワーク上での使用权のみを本学では所有したいと考えておりますが、これに関しては貴社と協議いたします。

## 6. 作業経費

データベース化に必要な経費は本学が負担します。

## 7. 今後の方針

電子化の方法、利用形態など、具体的な事項については貴社と協議をさせていただきたいと思っております。